

化学委員会（第26期・第8回）・化学企画分科会（第26期・第2回）合同分科会
議事要旨

I 日 時

令和6年6月11日（火）11:30～12:15

II 会 場 分子科学研究所 会議室
オンライン会議（ZOOM）

III 出席者

（現地出席）

岡本 裕巳、高柳 大、玉田 薫、福島 孝典、三浦 佳子、相田 美砂子、菅原 洋子、関根 千津、山本浩史

（オンライン）

北川 尚美、佐々木 園、西原 寛、君塚 信夫、茶谷 直人、所 千晴

（15名、敬称略）

（欠席者：石原 一彰、菅 裕明、鈴木 朋子）

IV 議 事

- 1) 2024年度分子科学研究所長招聘会議について
- 2) 合同分科会について
- 3) その他：文科省の施策について

< 配布資料 >

なし

議題 1: 2024年度分子科学研究所長招聘会議について

- ・シンポジウムの内容について確認された。
 - 全体司会：山本委員
 - 分子研渡辺所長から挨拶
 - 岡本委員から学術会議の活動紹介とシンポジウムの主旨説明
 - 関根委員による見解の概要紹介
 - 講演者：高見氏（科学技術学術政策局）、高橋教授（金沢工業大学）、時丸氏（旭化成）、岡本氏（富士通）
 - 総合討論：関根委員の司会で進行

- 参加者の状況・属性についての確認が行われた。
 - 参加登録者：約 200 名
 - 学生：約 30 名（主に大学関係、企業からの参加もあり）
 - 現地参加：約 25 名（教授が多い）
 - 企業参加者：メーカーが多く、新聞社も数名

- 総合討論の進行について確認が行われた。
 - 短い質問を受けた後、設定したテーマについてディスカッション
 - 学位取得者の民間企業での働き方を議論
 - 就職活動の弊害についての議論は避ける

- その他以下の点について確認が行われた
 - オンライン質問の対応方法
 - 文科省の施策に関しては今回のシンポジウムでは深入りしない

議題 2: 合同分科会について

- 開催計画
 - 12 月に開催予定
 - 去年は講演会が中止されたが、今年は復活させる

- 日程調整
 - 候補日：12 月 23 日～25 日（幹事会が 12 月 20 日）
 - 26 日までは授業があるため難しい
 - 28 日は御用納めのため、26 日までに行うのが無難ではある。
 - 12 月後半で委員の予定を確認し決定する

- 講演会のテーマと講師**
 - ベンチャーの経営者に依頼予定
 - 菅先生にお願いする案
 - テーマは夏の終わりのころまでに決定

その他：文科省の施策について

- 施策の内容
 - 博士課程に関する情報開示を義務化
 - 留年率、中途退学率、修了後の進路状況などの情報公開

- 懸念点
 - 博士人財の質の保証に対して逆行懸念
 - 未熟であっても3年で博士号を取らせる方向への懸念
 - 分野によってはフィールドワークの時間が必要であり一律3年で議論するのは無理がある
- 経済的支援の重要性
 - 給料が出ていれば在学期間の長短は問題にならないのではないか
 - 文科省の施策は学生の真意を捉えていない懸念
- 施策の意図
 - 施策の目的が不明確
 - 小委員会を設定して議論する可能性もある

以上